

## はじめに

今年度、本校では、1月末から2月初旬にかけて児童アンケート、保護者アンケート、教員アンケートの3つを実施しました。昨年度は、中間期である9月にも児童、教員のアンケートを実施していましたが、今年度はコロナ禍の中、政府の緊急事態宣言を受け、年度初めの4月、5月が臨時休校となり、学校教育活動も例年とは大きく異なったものになったこともあって、当初予定していた中間期(9月)のアンケートは実施しませんでした。尚、今年度も昨年同様、学校評価アンケートは、児童、保護者、教員の3つとも4件法で実施しました。昨年度と今年度の経過比較も含めて報告します。



## 各アンケートについての考察

### 【児童アンケート】

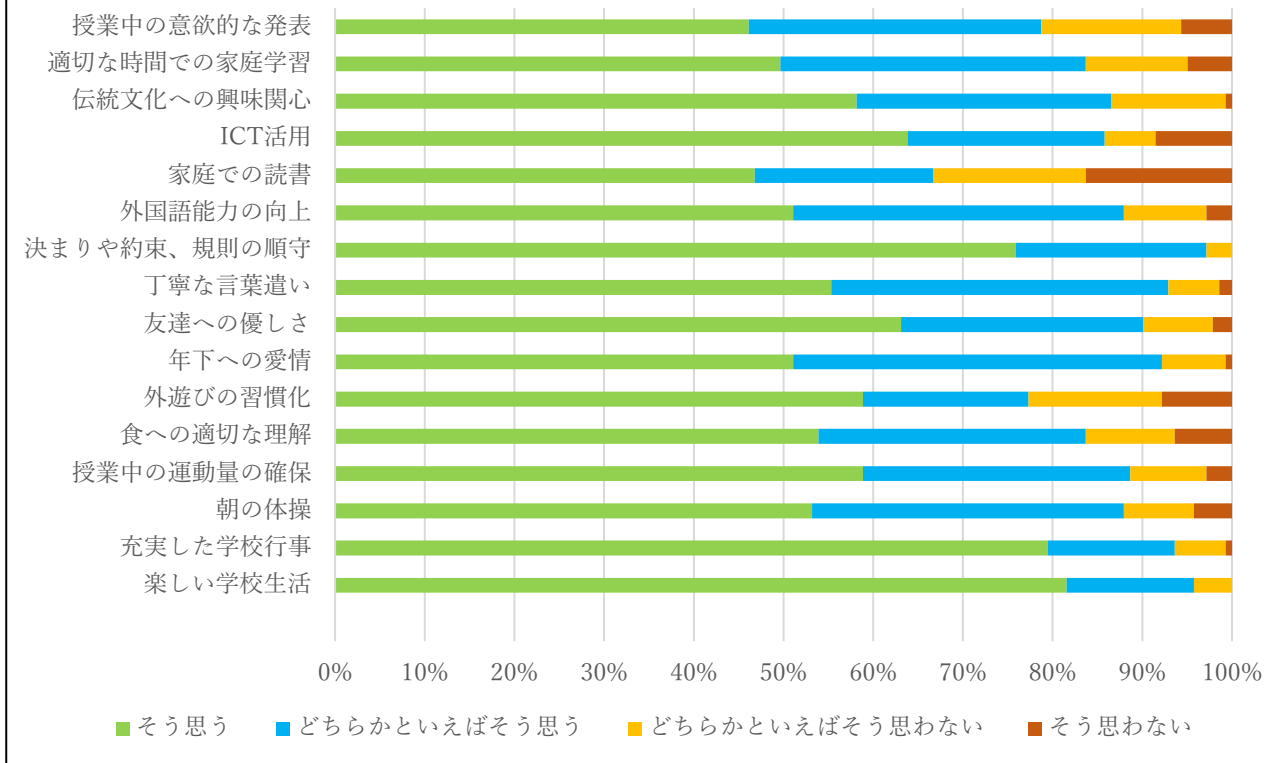
児童アンケート(資料1)は、「学習」「生活」「健康・安全」「学校」の4つの領域について質問しました。回答欄を「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「思わない」の4件法で行いました。

R2年度末 児童アンケート集計 (%)

		項目	肯定的意見(%)						
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
学 習	1-①	授業中の意欲的な発表	94	67	100	67	67	75	79
	1-②	適切な時間での家庭学習	94	88	97	72	81	67	84
	1-③	伝統文化への興味関心	89	71	97	100	81	83	87
	1-④	ICT活用	94	63	97	83	78	100	86
	1-⑤	家庭での読書	67	42	83	89	63	58	67
	1-⑥	外国語能力の向上	94	67	93	94	89	92	88
生 活	2-①	決まりや約束、規則の順守	78	100	100	100	100	100	97
	2-②	丁寧な言葉遣い	78	88	93	94	100	100	93
	2-③	友達への優しさ	89	83	97	83	93	92	90
	2-④	年下への愛情	94	96	93	94	85	92	92
安 全 健 康	3-①	外遊びの習慣化	89	75	90	94	52	71	77
	3-②	食への適切な理解	83	71	97	89	74	88	84
	3-③	授業中の運動量の確保	100	67	97	94	78	100	89
	3-④	朝の体操	100	79	93	89	85	83	88
学 校	4-①	充実した学校行事	89	88	100	100	89	96	94
	4-②	楽しい学校生活	100	96	100	100	81	100	96

 肯定的意見の割合が90以上  
 肯定的意見の割合が80~90

## R2年度末 児童アンケート全校

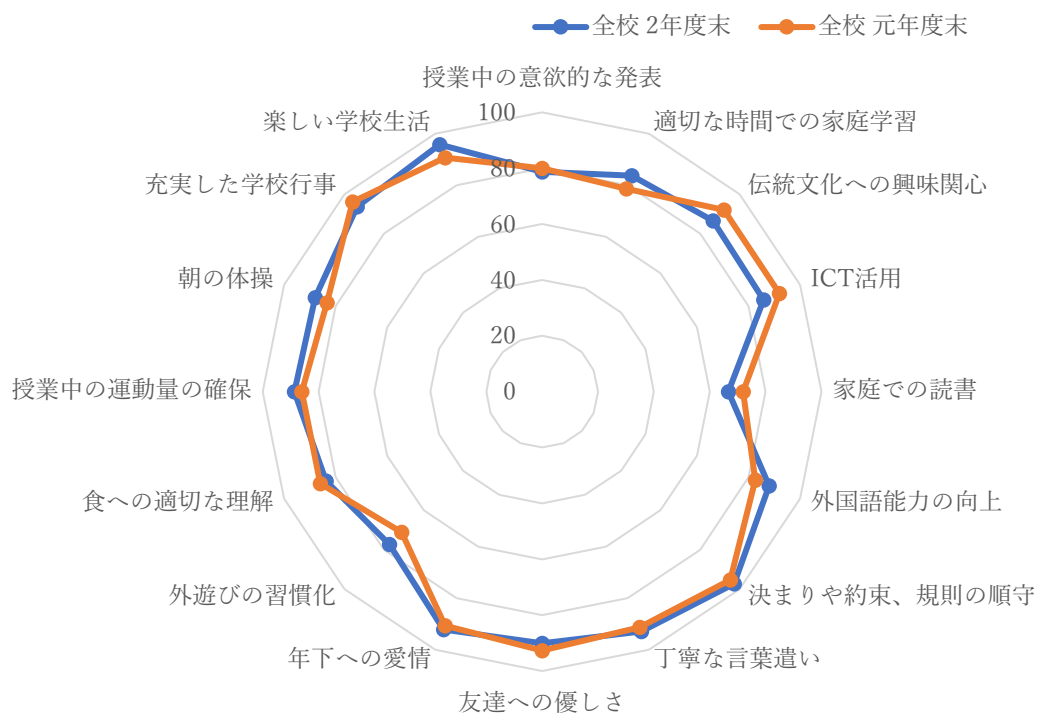


児童アンケートの集計結果をしてみると、全校においては肯定的評価がほとんどの項目で80ポイント以上かそれに近い値であり、児童らは、各項目において概ね肯定的な評価をしていることがわかりました。特に生活面においては、4項目すべてが90ポイント以上であり、高評価です。また、「充実した学校行事」「楽しい学校生活」という2項目においても高い評価結果でした。今年度は、コロナ禍の中、行事の中止や縮小、変更等があった中、子どもたちにとっても「しんどい」1年だったと思いますが、それなりに充実した学校生活を送れたようで、よかったですと思います。

ただ、気になる点もあります。一つ目は、「授業中の意欲的な発表」です。学年によっても差がありますが、特に高学年は概ね低い評価になっています。本年度から本格実施された新しい学習指導要領の柱でもある「主体的・対話的で深い学び」が必要とされる中、しっかり自分の意見を言えるような学級づくり、授業の在り方について考えていく必要があります。来年度に向けた大きな課題の一つになると思います。二つ目は、「家庭での読書」です。こちらも4つの学年で70ポイントを下回っています。家庭への働きかけを今後も継続して行う必要があると考えます。三つ目は、「外遊びの習慣化」です。昨年度も低評価が見られた項目の一つです。学校では、これらの事態の改善のために、「うきうきタイム」等の実施に加えて、クラス単位での遊びの実施など、更に工夫を重ねていく必要があると思います。

「ICT活用」については、今年度コロナ禍により、文部科学省のGIGAスクール構想が前倒しされ、2学期末には、児童一人に一台のタブレット端末(chromebook)が配られ、今まで以上にICTを活用した授業が必要とされるようになりました。3学期から、授業に活用できるようになり、授業で使う場面も増えてきました。6年生では、県の学力到達度調査を3学期初めに端末を使って行った関係もあり、全ての児童が、肯定的という回答でした。来年度以降、全ての学年でこの項目については、肯定意見が増えるものと思われます。授業におけるタブレット端末の活用法の研修や使用する際のルール作り等も今後の課題として、取り組んでいきたいと思っています。

## R2年度と前年度 全校児童肯定的意見の割合の経過比較



続いて、児童アンケートの肯定評価について、昨年度末と今年度末で経過比較をしたいと思います。両時期のアンケートを比較してみると、分布形態に大きな変化は見られませんが、「適切な時間での家庭学習」「外国語能力の向上」「外遊びの習慣化」「朝の体操」「楽しい学校生活」等で、肯定的意見が増加しています。学校生活が楽しいという項目が、昨年度より増加したことは、うれしいことです。それだけ充実した学校生活が送れているということだからです。今後もこの項目が増えるようにしていきたいと思います。外国語能力の向上が増加しているのは、今年度より高学年で外国語が教科化され、教員が教育実践の改良や工夫を試みたからだと思います。また、他の項目に比べてまだ低いものの「外遊びの習慣化」が昨年度と比べて向上したのも良い傾向です。今年度は、体育部の取り組みとして、音楽に合わせたリズムなわとび取り組みました。その結果、寒い時期に外に出て元気になわとびをする子が増え、それに伴い肯定割合も増えたものと考えられます。来年度も今年度の結果を元にそれを改善するための地道な取り組みが必要になると思います。



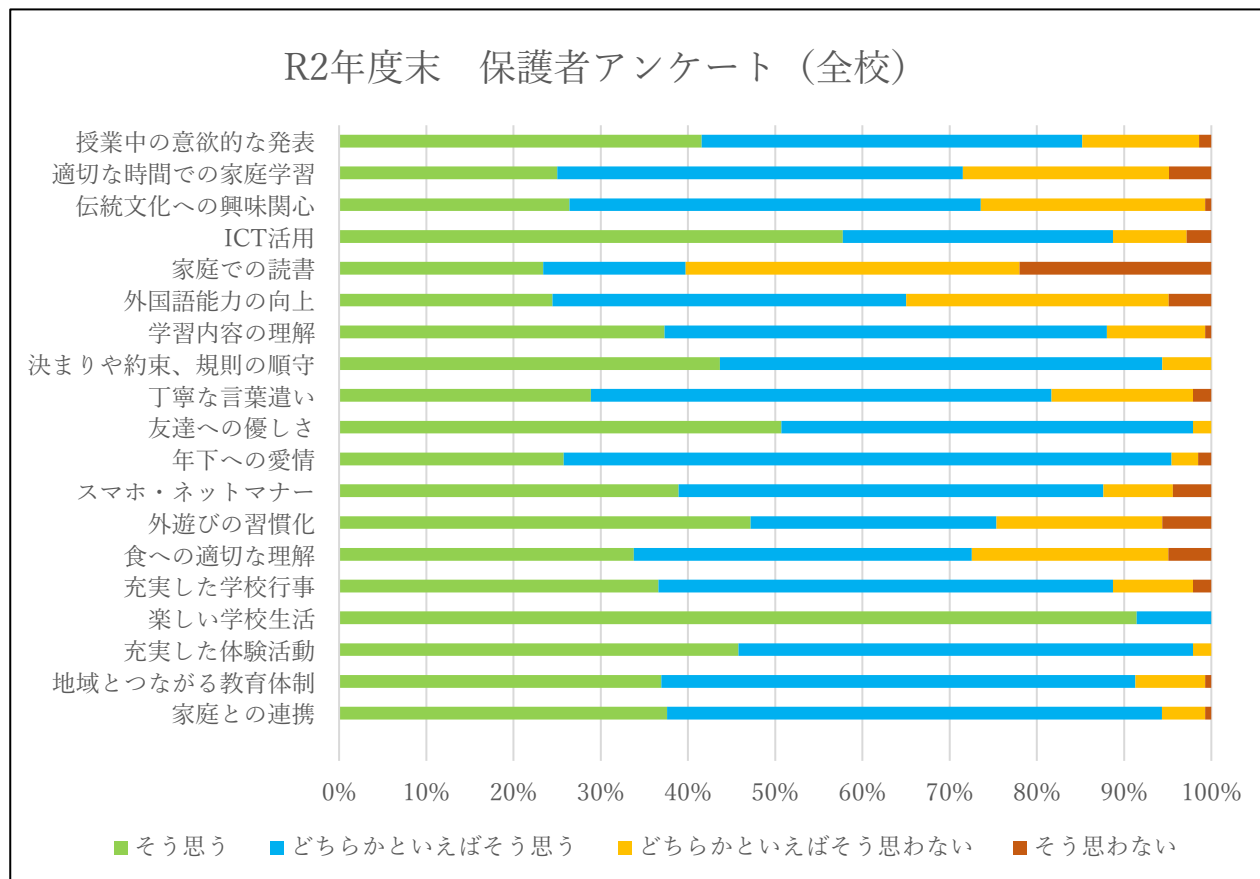
### 【保護者アンケート】

保護者アンケート（資料3）も、「学習」「生活」「健康・安全」「学校」の4つの領域について質問しました。児童アンケート同様に、今年度は回答欄を「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「思わない」の4件法で行いました。

R2 年度末 保護者アンケート集計 (%)

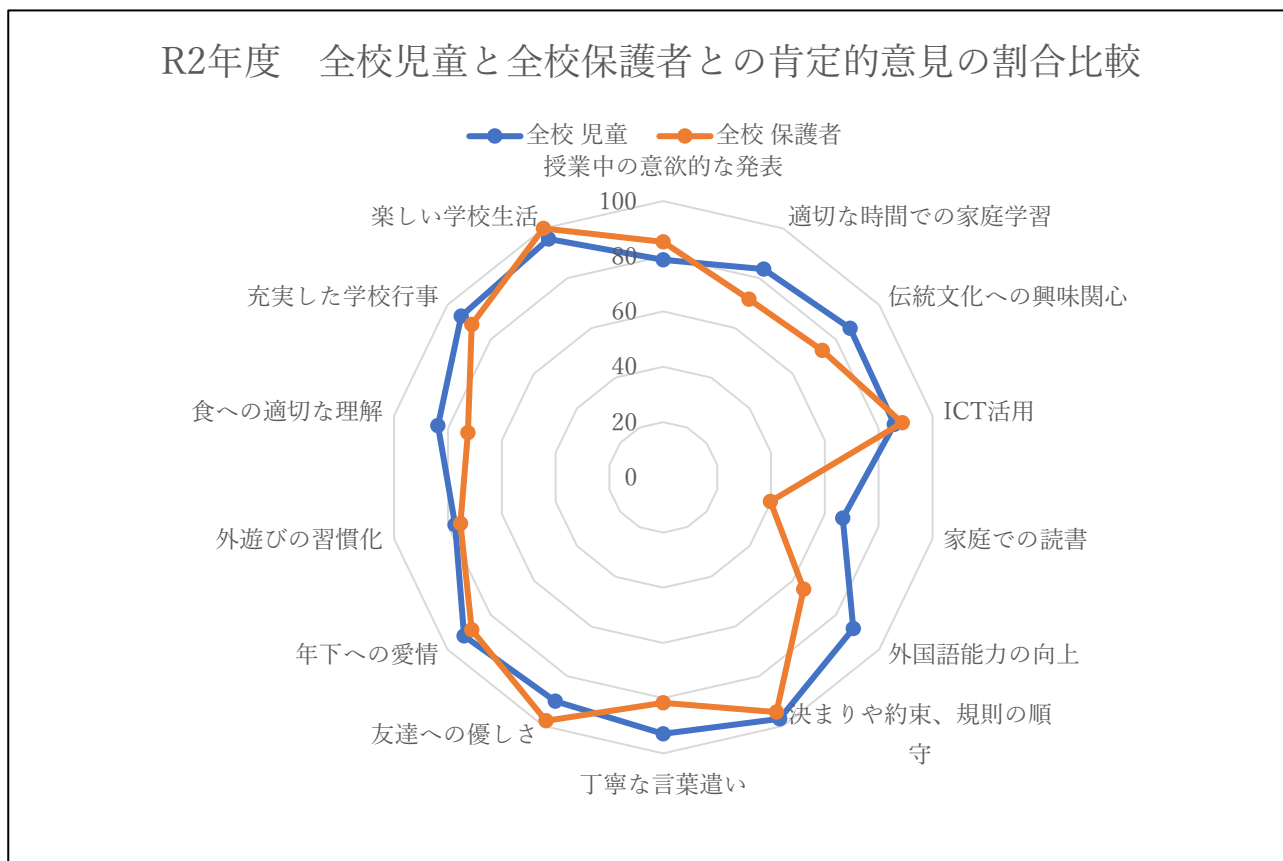
	項目	肯定的意見(%)						
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
学習	1-① 授業中の意欲的な発表	100	96	81	89	85	67	85
	1-② 適切な時間での家庭学習	56	75	84	72	70	65	72
	1-③ 伝統文化への興味関心	61	71	65	78	81	86	74
	1-④ ICT活用	83	88	94	94	89	83	89
	1-⑤ 家庭での読書	22	42	29	44	41	61	40
	1-⑥ 外国語能力の向上	53	54	68	78	63	75	65
	1-⑦ 学習内容の理解	100	88	87	89	85	83	88
生活	2-① 決まりや約束、規則の順守	89	96	97	100	96	88	94
	2-② 丁寧な言葉遣い	67	83	81	94	81	83	82
	2-③ 友達への優しさ	100	96	94	100	100	100	98
	2-④ 年下への愛情	89	92	71	89	96	100	89
	2-⑤ スマホ・ネットマナー	69	94	77	100	95	91	88
安健全康	3-① 外遊びの習慣化	83	88	74	78	67	67	75
	3-② 食への適切な理解	56	75	74	89	63	79	73
学校	4-① 充実した学校行事	83	96	81	94	93	88	89
	4-② 楽しい学校生活	100	100	100	100	100	100	100
	4-③ 充実した体験活動	100	100	100	100	100	88	98
	4-④ 地域とつながる教育体制	89	92	86	100	100	83	91
	4-⑤ 家庭との連携	100	91	97	94	96	88	94

肯定的意見の割合が90以上  
 肯定的意見の割合が80~90



保護者アンケートの集計結果について見てみると、生活面では、学年によって、差はあるものの学校全体では5つの項目全てにおいて80ポイント以上の肯定意見で、児童のアンケート結果同様、高評価でした。また、「充実した学校行事」「楽しい学校生活」という2項目においても児童同様高い評価結果が得られました。コロナ禍により、保護者にとっても例年とは大きく違った1年になったと思いますが、学校全体に関わる5つの項目全てで、高い評価になったことは、学校の教育活動が保護者に理解されている証だと考えます。

反面、低い評価の項目もあります。その中でも「家庭での読書」が最も低く、全体で40ポイントしかありません。児童もこの項目が低く、今後の大きな課題です。本校では、教育活動の重点課題として「豊かな心を育む読書活動の充実」を掲げ、読書ボランティアによる読み聞かせ活動や学校司書や図書館司書によるブックトークの実施などの取り組みを今年度も行いました。この項目は昨年度も46ポイントと低く、なかなか家庭での読書習慣が身に付いていないと感じる保護者が多い現状が続いていることが分かります。今後も個人懇談や学級通信を通して家庭への啓発の必要性を強く感じます。本に親しむことが論理的な思考を育んだり、深く物事を追及したりする力を培ったりすることを保護者に伝えていきたいと考えます。次に低いのは、「外国語能力の向上」です。今年度より、外国語活動が高学年で教科化され、通知表に成績として付くようになったこともあり、こちらも今後の課題にしたいと思います。



次に児童のアンケートとの比較ですが、全般的に概ねよく似た傾向にあるものの、児童に比べてかなり評価の低いものもいくつかあります。先の2項目に加えて、「適切な時間での家庭学習」「伝統文化の興味関心」「丁寧な言葉遣い」等です。立場による認識の違いが、評価の違いとなって表れたものだと思いますが、いろいろな機会を通して、保護者に発信したり啓発を行ったりする必要性を改めて感じるとともに、肯定意見が増えるように学校としても努力を続けていきたいと思ひます。



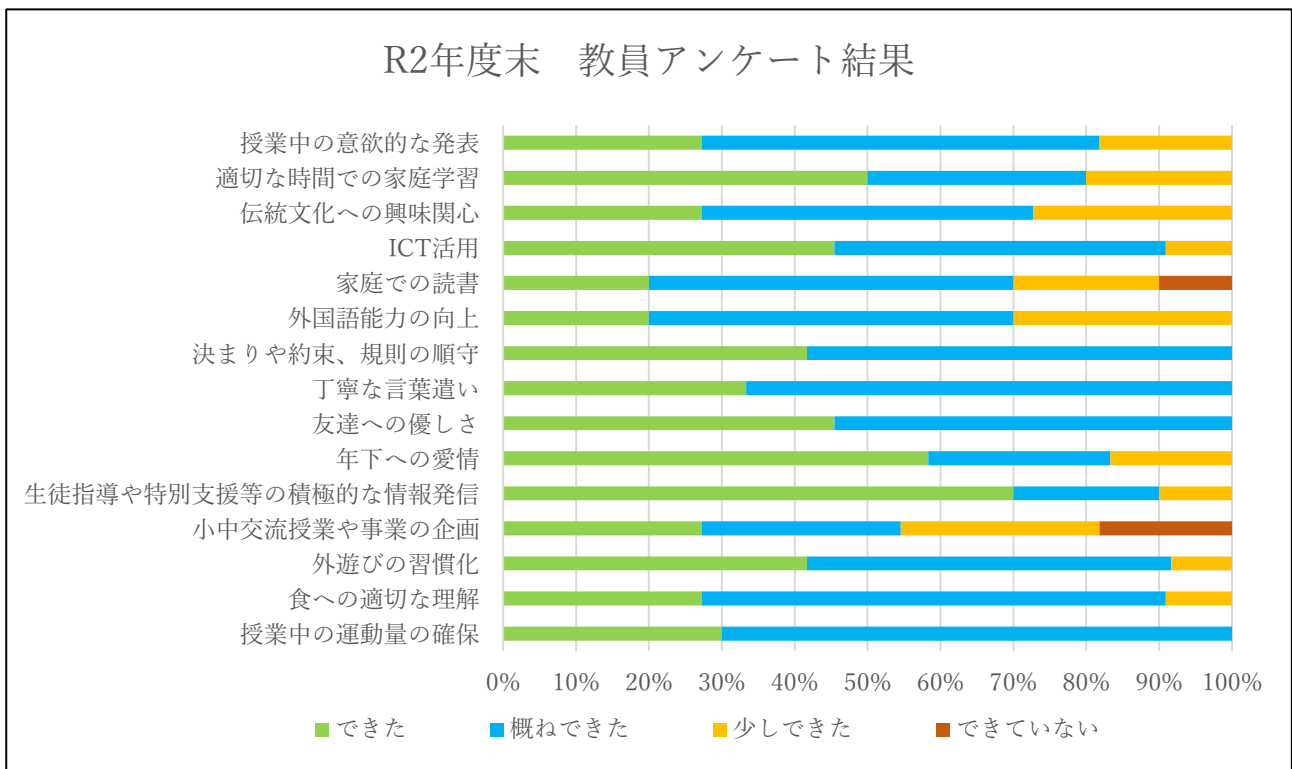
## 【教員アンケート】

教員アンケート（資料4）は、「学習」「生活」「健康・安全」の3つの領域について質問しました。児童アンケート、保護者アンケートとの比較をするため、教員アンケートも4件法で実施しています。

### R2年度 教員肯定的意見の割合（%）

		項目	肯定意見 2年度末	肯定意見 元年度末
学 習	1-①	授業中の意欲的な発表	82	75
	1-②	適切な時間での家庭学習	80	55
	1-③	伝統文化への興味関心	73	100
	1-④	ICT活用	91	92
	1-⑤	家庭での読書	70	60
	1-⑥	外国語能力の向上	70	80
生 活	2-①	決まりや約束、規則の順守	100	100
	2-②	丁寧な言葉遣い	100	100
	2-③	友達への優しさ	100	100
	2-④	年下への愛情	83	85
		生徒指導や特別支援等の積極的な 情報発信	90	100
		小中交流授業や事業の企画	55	62
安 全 健 康	3-①	外遊びの習慣化	92	58
	3-②	食への適切な理解	91	85
	3-③	授業中の運動量の確保	100	89

肯定的意見の割合が90以上  
 肯定的意見の割合が80～90



教員アンケートの結果を見てみると、肯定的意見が、70ポイントを下回ったものとして、「小中交流授業や事業の企画」が挙げられます。本校では、小中一貫教育校という特徴を生かして、主に高学年で中学校教員による各教科における乗り入れ授業の実施や行事の合同開催等、小中の交流を図ってきましたが、今年度は、コロナ禍により、例年は小中合同で行っている運動会が別日になったり、中学校の文化発表会に合わせて行っている音楽発表会が、中止になったりした影響もあると思います。ただし、この項目は、昨年度も評価が低く、今後も小中一貫校としての取り組みを模索していく必要があると考えます。

肯定的意見の割合が多かったものとして生活に関する項目や健康安全に関する項目が挙げられます。児童の学校生活や健康安全面に関しては、教員も自信を持って取り組んでいることが見て取れます。

次に昨年度と今年度の肯定的意見の割合を比較してみると、今年度大きく増加したものとして、「適切な時間での家庭学習」「外遊びの習慣化」が挙げられます。「適切な時間での家庭学習」については、家庭学習トライウィーク等の取り組みや一人一台の端末を使った宿題等、教師の工夫が少しずつ実を結びつつあると言えます。逆に減少したものに「伝統文化への興味関心」があります。本校では、校区の特徴を生かして、総合的な学習の時間の中で茶道・作法教室を行っていますが、児童の興味・関心が少し薄れてきたと感じる教員がいるということで、来年度の課題にしたいと思います。

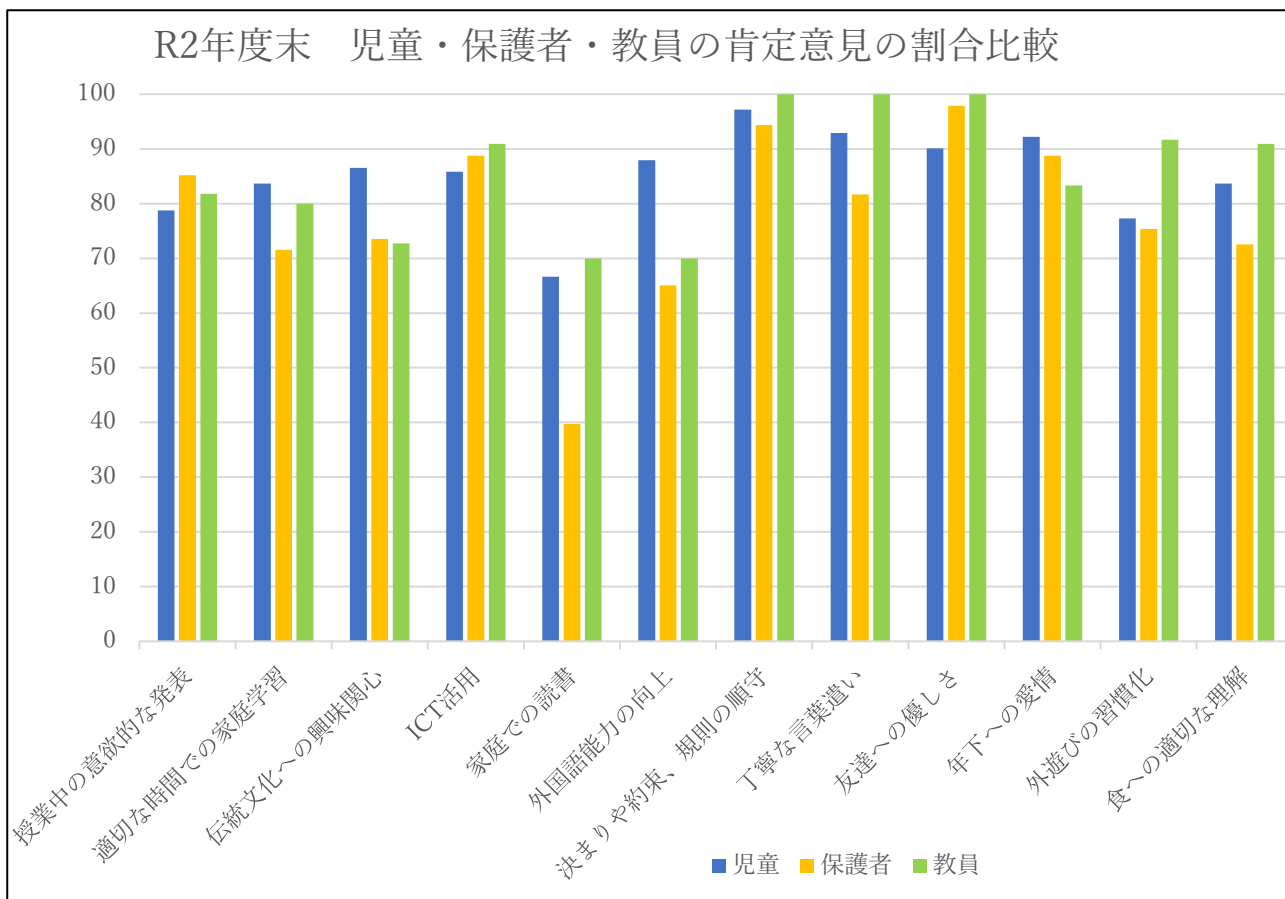
### 【各アンケートの相互比較】

最後に、児童・保護者・教員のそれぞれのアンケートの集計結果を相互比較したいと思います。下の表は、それぞれのアンケート項目の肯定評価の割合を表しています。

R2 年度末 児童・保護者・教員アンケート集計結果相互比較 %

	番号	項目	児童	保護者	教員
学習	1-①	授業中の意欲的な発表	79	85	82
	1-②	適切な時間での家庭学習	84	72	80
	1-③	伝統文化への興味関心	87	74	73
	1-④	ICT活用	86	89	91
	1-⑤	家庭での読書	67	40	70
	1-⑥	外国語能力の向上	88	65	70
生活	2-①	決まりや約束、規則の順守	97	94	100
	2-②	丁寧な言葉遣い	93	82	100
	2-③	友達への優しさ	90	98	100
	2-④	年下への愛情	92	89	83
安健全康	3-①	外遊びの習慣化	77	75	92
	3-②	食への適切な理解	84	73	91
	3-④	朝の体操	88		
学校	4-①	充実した学校行事	94	89	
	4-②	楽しい学校生活	96	74	
	4-③	充実した体験活動		98	
	4-④	地域とつながる教育体制		91	
	4-⑤	家庭との連携		94	
その他		生徒指導や特別支援等の積極的な情報発信			90
		小中交流授業や事業の企画			55
		学習内容の理解		88	
		情報機器についてのマナーとモラル意識		88	

肯定的意見の割合が90以上  
 肯定的意見の割合が80～90  
 肯定的意見の割合が70以下



児童、保護者、教員の肯定評価の比較のためにグラフ化したものが上に示されていますが、それぞれのアンケートを比較して20ポイント以上の開きがあった項目は、「家庭での読書」「外国語能力の向上」の2項目です。特に「家庭での読書」は、3者ともに低い評価ですが、保護者の肯定的評価が40ポイントと最も低く、今後しっかり取り組んでいく必要のある大きな課題だと言えます。学校でもしっかり取り組み、さらに家庭への啓発や情報発信の在り方も考えていく必要があると思います。

3者ともにあまり差がなく、高い評価だったものは「ICT活用」「決まりや約束、規則の順守」「友達への優しさ」等が挙げられます。この内、「ICT活用」に関しては、本校には他校にはない、電子黒板が備わっていることに加えて、児童アンケートの考察にも書いたようにタブレット端末の導入により、授業でICT機器の活用機会が増えてきたことが大きな理由の一つだと思っています。「決まりや約束、規則の順守」「友達への優しさ」等、学校生活に関わる項目が高評価なのは、児童にとって学校が安心できる場であるという一つの証であると考えられ、教育活動を実践している教員にとってうれしいことです。

## おわりに

今年度は、コロナ禍の中、年度初めの臨時休校や行事の中止、縮小等の関係で、児童、保護者、教員とも中間期のアンケートは行わず、年度末だけのアンケートとなりましたが、多くの項目で昨年度に引き続き、80ポイント以上の肯定評価が見られたことにより、本校の教育活動全般において、目標が概ね達成できていると評価ができます。しかし、まだまだ家庭での読書や外国語の向上等、改善の余地がある部分も少なくありません。今年度の学校評価をもとにして改善が必要な点については、問題の原因がどこにあるのかをしっかりと検証した上、課題を明らかにし、教員間で共有しながら、改善すべく、次年度も取り組んでいきたいと思っています。